

# がんばります

母校に着任し「喜びと同時に責任を感じる。学校の魅力づくりと情報発信に努め、地域の中核進学校という位置付けを強固なものにしたい」と話す。

市内では子どもの減少が続くのに加え、県立高校普通科の中学区制導入以来、市外の高校へ進学する生徒が増えた。「選ばれる高校になるには個性が必要。一人一人の特性を見極めて学力を伸ばすような、小規模校だからこそできるきめ細かな教育を目指す」

玉野高校長になった

多田<sup>ただ</sup>一也<sup>かずや</sup>さん



生徒が自ら考えて行動する「主体的学び」を重視する。

勉強以外にもボランティア活動や地域イベントへの参加を促していく考えで「達成感や満足感を通して、社会に役立つ人間になろうという気持ちを育みたい」。

玉中から玉野高に進み、野球部で活躍した。1978年秋の県大会を制して中国大会に進出したが、センバツにはあと一歩及ばず「ショーケースに飾られた『補欠校』の盾を見ると、達成感と悔しさが入り交じったような当時の心境を思い出す」と言う。

前任は高梁市立宇治高校長。趣味はサイクリング。岡山市南区妹尾の自宅に妻、長女と3人暮らし。56歳。（正本和臣）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。